

新体制での船出にあたって

代表理事 花鑑 實

今年3月の学会総会におきまして、宮脇先生の後を受け、学会運営を預かることになりました。前代表ほどの学識・見識もなく、甚だ心もとないのですが、学会創立に関わった者の一人として、昨今の急激な教育改革に見られるこの時勢の難局を、学会構成員諸氏のご協力を得て乗り越えたく思っております。よろしくお願いいたします。

さて今回の創立20周年の大阪大会では、3日間の日程にも拘わりませず、最後までお付き合い下さいました参加者の方々に厚くお礼申し上げます。企画倒れの感があるとのこと意見も頂戴しましたが、記念大会ということで、張り切った運営側の心意気だけは、それなりに評価して頂けたのではと思っています。何とか次の時代、20周年以降の学会につなげたい、伝えたいという気持ちを少しでもお汲み頂ければと願う次第ですが、初日の記念リレートークにもありました、この学会がこれまで取り組んできた美術教育学の確立が、今後この学会の使命となることは言うまでもないことと思っています。

もちろん今回のいろいろな討議やここ数年の学会をめぐる提議からも、この美術教育学的内容そのものが検証され、検討されねばならないことは明白です。また、教育現場を始め、今日では広範囲に広がった数々の美術教育の実践の場へ、この学会が有効にアプローチしうるかどうか、今後のこの学会の学的内容に関わって問われていくいくであろうことも視野に入れねばならないと思います。

20年前、この学会はそれ迄の教育系大学に見られた安易な表現技術や指導法の提供といった単なる実技的・指導主事的機能や師弟の人間関係に寄りかかった教育現場との癒着を切り離して、教育科学として普遍的な原理・方法の確立への取り組みを始めました。しかしその後、学会発表が単なる業績作りのためのアカデミックな権威づけに傾きはじめることなどをめぐって学会の形骸化への批判が出てきたことも否定できません。前代表が「出前シンポ」という形でこの枠組を崩すために自費を投じて腐心されたご努力に改めて感謝申し上げますが、実践の場と研究の場の信頼と結び付きが個人の域を超えて学会や学的機関とのつながりに発展していくには、背景の制度や文化を含めて越えねばならない山は大きいと思います。勿論それを乗り越えねばならないのも、学会の使命だと思いますし、私たちの責任だとも自覚しています。今改めて教育実践へのアプローチが基本課題として若い研究者からも大きな声が寄せられているとき、この学会の成立の意義も含めて全会員の知恵を結集して歩んでいきたいと念じています。

メディア社会や国際化時代の到来とともに、交流や情報のネットワーク化も学会として早急に整備していかなければなりません。若い研究者のライセンス志向も単なる権威志向と切り捨てるのではなく、その中にあるプラグマティズムや規範性に対応するように学会の整備も図らねばなりません。21世紀への転換点にあたって、この学会にも押し寄せてくる課題・問題は尽きないと思いますが、美術教育を愛し、研究を志す人がいる限り、多くの先輩方が築き上げてきた学会の灯を絶やさず、次の世代に引き継ぐことを念願して就任の挨拶に代えさせていただきます。

美術科教育学会運営新体制報告

(1998年～2001年)

■理事 監事

赤木理香子(岡山大学) 大形健(福島大学) 新井哲夫(群馬大学) 岩崎由紀夫(大阪教育大学) 土山浩(三重大学) 宇田秀士(奈良教育大学) 大橋晴世(前上誠教育大学) 岡崎昭夫(筑波大学) 金子 大(茨城大学) 花岡寛(大阪芸術大学) 柴田和豊(東京学芸大学) 竹内博(多摩美術大学) 武田薫(北海道教育大学旭川校) 辻川嘉邦(兵庫教育大学) 那賀真彦(大阪教育大学) 仲瀬律久(聖徳大学) 長田謙一(千葉大学) 永守基樹(和歌山大学) 西野範夫(上誠教育大学) 橋本泰幸(島根教育大学) 長谷川哲哉(和歌山大学) 浜本昌宏(武蔵野女子大学) 東山明(神戸大学) 福山博光(北海道教育大学岩見沢校) 藤江充(愛知教育大学) 堀典子(横浜国立大学) 宮脇輝(元筑波大学) 吉井宏(福岡教育大学)
伊藤雅西人(監事、聖徳大学) 古市薫一(監事、前お茶の水女子大付属小学校)

■執行部

二代表理事 花岡 寛(大阪芸術大学)
三副代表理事(研究部担当) 柴田 和豊(東京学芸大学)
同 司(総務部担当) 長谷川 哲哉(和歌山大学)
二事務局 和歌山大学教育学部美術教育研究室(98年9月以降)
〒640-8441 和歌山 市采谷930 ☎0734-54-5805(長谷川研究室)
0734-54-9361(永守研究室)
(事務局代表) 長谷川哲哉
(庶務・一会員名簿、入会、連絡など) 永守基樹(和歌山大)
(会計・一会費、出納など) 岩崎由紀夫(大教大 06-775-6616 研究室)
(発行・一学会通信など) 宇田秀士(奈良教育大 0742-27-9223 研究室)
(情報・一情報収集、連絡など) 土山浩(三重大 0594-22-1581 研究室)

■理事職務分派(所略略 ◎印責任者)

- ①学会活動・行事(◎宮脇輝 藤江充 橋本泰幸)
- ②会員組織・名簿(◎増田金吾 大形健 武田薫 赤木理香子)
- ③学会通信 編集(◎新井哲夫 浜本昌宏 那賀真彦)
- ④学術会議・他学会関連(◎竹内博 長田謙一 福山博光)
- ⑤学会誌編集(◎岡崎昭夫 仲瀬律久 大橋晴世 金子 大 吉井宏)
- ⑥現場実践(◎西野範夫 東山明 辻川嘉邦 堀典子 宮脇輝)

「学会誌20号」への投稿締め切りについて

又年3月に発行予定の「学会誌20号」への投稿締め切り日は、おおむね例年通りで7月末日とさせて頂きます。今回は学会新体制を確定するのに少なからず時間を要したため、通信の発行が延び延びになり、通信紙上で全会員にお知らせするのが遅くなってしまいました。心苦しい限りです。その間、大阪大会での発表者の方々には期日と要項をお知らせするとともに、大学院のある大学に勤務する会員の方々にも連絡をし、「周囲の方々への情宣」の依頼をいたしました。そのことで、投稿希望者をほぼ実質的にカバーできているのではと考えますが、会員の方々には迷惑のかからないことをただただ念じる次第です。執筆要項が必要な方は学会本部事務局(東京学芸大学大)までご請求下さい。あるいは、書式は後で修正が来きますので、とにかくへたならぬ原稿を期日までに本部事務局宛にお送り下さい。

《美術科教育学会 97年度会計決算報告》

◇ 収入の部

単位：円

◇ 支出の部

単位：円

項 目	収入額	項 目	支出額
年会費（含 前年度預り金） 〈これは455名強の額に相当〉	2,731,426	大会補助金	200,000
平成9年度学会誌刊行助成金	590,000	学会誌18号印刷代不足分	207,908
学会誌19号掲載料 超過頁分 〈13件、1頁当り5,000円〉	125,000	学会誌19号印刷代	2,564,100
学会誌売上金〈2,500円×20〉	50,000	学会誌18号郵送料（学会センターより、85,655円）	
概要集売上金〈500円×4〉	2,000	学会誌19号編集費	94,936
定期預金取り崩し分	500,000	学会通信編集作成費	49,770
その他（利息等）	64,390	学会通信郵送料（学会センターより、別に186,590円あり）	65,000
前年度繰越金	1,299,566	通信・郵送料	72,542
合 計	5,362,382	謝金（アルバイト）	88,300
		会議費	108,262
		旅費（理事会・総務会）	300,200
		事務補助費	120,000
		事務運営費	28,320
		事務費（消耗品）	22,154
		公開シンポジウム補助費	60,000
		部会補助費	95,000
		学会史編集費	100,000
		学術協力財団賛助費	50,000
		インシア東京大会協賛費	50,000
		選挙管理運営費	94,720
		学会センター97年度会員業務費	527,089
		学会センター上記以外の引落金	452,769
		雑費	27,917
		小 計	5,378,987
		次年度繰越金	-16,605
		合 計	5,362,382

*別途に500,000円の基金あり

インフォメーション

◎第21回美術科教育学会福島大会は、1993年3月26～28日の日程で福島大学を会場に開催されます。問い合わせは福島大学教育学部美術科の三浦浩喜会員まで（☎024-548-8227）

◎本部事務局は本年の9月1日付けで東京学芸大学から和歌山大学へ移転します。新事務局は関西連合の趣をもつ強力体制です。

《美術科教育学会 98 年度会計予算案》

◇ 収入の部

単位：円 ◇ 支出の部

単位：円

項 目	収入額	項 目	支出額
年会費 〈正会員506名分=3,036,000円 賛助会員6社分=120,000円〉	3,156,000	大会補助金	200,000
平成10年度学会誌刊行助成金	750,000	学会誌20号印刷代	2,350,000
学会誌20号掲載料 〈1件25,000円+超過頁1頁分 5,000円で、30人分を想定〉	900,000	学会誌19号郵送料(学会センターより発送)	
学会誌売上金(3,000円×20冊)	60,000	学会誌20号編集費	60,000
概要集売上金(700円×10冊)	7,000	学会通信編集作成費	45,000
前年度繰越金	-16,605	学会通信郵送料(学会センターより発送)	
合 計	4,856,395	通信・郵送料	60,000
		謝金(アルバイト)	80,000
		会議費	70,000
		旅費(理事会・総務会)	150,000
		事務補助費	60,000
		事務運営費	25,000
		事務費(消耗品)	20,000
		部会補助費	95,000
		学会史作成費	450,000
		学会誌編集費	80,000
		学術協力財団賛助費	50,000
		学会センター・98年度会員業務費	530,000
		学会センター上記以外の引落金 予備費	450,000 60,000
		小 計	4,835,000
		次年度繰越金	21,395
		合 計	4,856,395

*別途に500,000円の基金あり

インフォメーション

- ◎研究活動ならびに学会活動で大きな功績をあげた会員を対象とする学会賞・学会表彰制度を検討中です。8月末の理事会で制定したく思っています。
- ◎「美術教育の課題と授業研究部会」の代表が東山明理事(神戸大学)から新井哲夫理事(群馬大学)に交替します。
- ◎平成10年度も学会誌の刊行補助費が交付される旨の内定通知を受け取りました。これで本年度の予算案がフィクションにならずに済みます。安堵しています。